

2024年「相沢良を語り継ぐつどい」を開催

一県内各地から60名が参加



相沢良の碑前で記念写真 (5月15日 浪岡)

五月十一日、浪岡にて「相沢良を語り継ぐつどい」が行われ、県内各地から六十名が参加しました。当日は快晴の中、碑前祭と五年ぶりとなる「学習会」も行いました。



NO. 600

編集 発行人 田中幹夫
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034
東京都文京区湯島 2-4-4
平和と労働センター全労連会館内
電話 03-5842-6461
FAX 03-5842-6462
振替 00110-6-97793
定価 50円

【第一部 碑前祭】

午前十一時から浪岡西山展望台で、天内慎也青森市議の司会で始まり、主催者を代表して国賠同盟県本部館田篤廣会長が挨拶し、岸田政権による、憲法を踏みにじり、米国と一緒に「戦争する国づくり」に対して強く批判し、総選挙で岸田政権打倒へ力を合わせることを呼びかけました。また、来賓の畑中孝之日本共産党青森県委員長から連帯の挨拶、高橋千鶴子衆議院議員のメッセージが読み上げられました。その後、弘前支部代表による献花が行われ、最後に斉藤二郎さんのアコーディオンで「青い空は」など数曲を皆で歌いました。歌声は五月晴れの空に響き渡り、相沢良の戦前のたたかいに思いをはせ、戦争を絶対に許さない決意を固めました。会場では、2万8460円の募金が寄せられました。

【第二部 学習会】

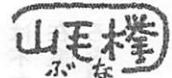
午後一時、花岡農村環境改善センターで堀幸光氏（市民連合あおもり事務局長）が「相沢良の生き方と現代」と題して講演。相沢良の生きた時代（1910年5月〜1936年1月28日）の国内外の動きや国民運動も含めた詳細な年表を資料に、良がいかに自由も民主主義もない時代に迫害や投獄に屈することなく前を向いて歩み続けたか、分かりやすく講義しました。参加者からは「相沢良の名前は知っていたが、こういう人か初めてわかった」「共産党とかかわりも知らなかった」などの感想が出されました。堀氏は「相沢良の二十五年の生涯を支えたのは科学的社会主義を学び、身につけて確信にしていたからだ」と述べました。（二面に続きます）

青森県版
2024年6月15日発行

第 384 号

〒038-0904
青森市茶屋町11番5号
TEL 017-718-3166
FAX 017-718-3167

青森県本部



▼私事で恐縮ながら新春からある病にとりつかれ苦しんでいる。二月の始め頭が痛み出し、割れるような痛みとなった。これは父のようにならぬように脳出血をしていると自己判断をして脳外科へかけこんだ。さっそくMRIで検査したが痕跡はないということだった。そのうちに顔のアゴ、耳、頭とモノがでる顔中痛んできた。皮膚科に行ったら良いと勧められ、さっそく受診したら顔を見るなり「あ、带状疱疹です」と言われて痛み止めの薬を出してくれました。医師に「顔の麻痺はどうなりですか」と尋ねたら「それは組織が壊されたのだから治らない」と言った。五十八日通院して別の皮膚科を受診した。医師は、なんでこんなことになるまでと言って一応薬が出た。三日通院したところで医師から「この病気は長く通院してもよくなるものではないから」と言われた。体の良い不治の宣告である。▼痛みや味覚、それに難聴の低下は戻らないのかと考えると暗澹となる。▼帯状疱疹は高齢やストレスが誘因するといふ。それにしてもストレスというなら真金問題等で私腹をこやしたり数々の悪政強行で国民を苦しめる岸田首相や自民党の国会議員に健全なストレスは発生しないのだろうか。帯状疱疹になつたとニュースは聞かないからよっぽどストレスに強い政党、面々なのかも知れない。しかし長く続けさせてはならない。自民党政治の終わりでストレスも解消といきたい。（工）

(一画続き)

【学習会の感想文から】

時代的制約の大きな時代にどうしてこのような人格的にも全面的な発達・成長を続けたのか疑問でしたが、講義でわかりました。(革命的行動・不屈性)

この人にとって、大きな障害・壁、困難は何だったのだろうか。なかつたのかしらとまた考えました。(S・T)

絵手紙

吉田 祥子 (東青支部)



第51回 国会請願行動に参加してきました

五月十五日、治安維持法による弾圧犠牲者への国家賠償制度を求める国会請願行動に本県から、上十三支部砂渡久美子さんと弘前支部柴田文男の二人が参加しました。全国からは百五十人が参集しました。

当日、十一時より衆議院第一議員会館大会議室で開催集行われまし。

吉田万三中央本部長が「ただ作文を書いた、絵を描いた、本を持っていただけで多くの人が特高警察によって刑務所に送られたのだ」と発言された時には、胸を締め付けられる感にかけられました。「庶民にとって、思ったことが話せない時代だった」「私たちは犠牲者への無罪と名誉回復を求め続ける」と挨拶されました。

集会では全国からの活動報告がありました。「生活圏画事件」犠牲者の菱谷良一さんが特別発言されました。菱谷良一さんは弾圧犠牲者の中で、ただ一人の生存者で百二歳ですが「生きているうちに勝利する」と元気の声で発言されました。

また、日本共産党の宮本岳志衆議院議員、山添拓参議院議員、立憲民主党の近藤昭一衆議院議員が駆けつけ、激励の挨拶を受けました。

午後からは各ブロック、各県代表が分担して請願行動をしました。

この度の国会請願もこれまでと同様「国に対する謝罪と賠償」は国会が「治安維持法犠牲者等国家賠償法」を成立させるための五十一回目の請願行動です。

青森県代表は、日本共産党の高橋千鶴子衆議院議員、岩淵友参議院議員、立憲民主党の田名部匡代参議院議員、に署名用紙を届け、請願行動をしました。議員と面会できたのは本県出身の高橋千鶴子さんだけでした。二人は不在でした。

(弘前支部 柴田文男)

五月十五日、第五十一回国会請願に弘前支部の柴田さんと二人で参加。衆議院第一議員会館地下一階の大会議室で午前の全体会が行われました。吉田万三

会長のあいさつ、日本共産党の宮本岳志氏、立憲民主党の近藤昭一氏の激励のあいさつ、百二歳になられた「生活圏画事件」の菱谷良一氏の発言がありました。各々方の話の内容は、今犠牲者の方々が亡くなり犠牲者が消える境目になり、新たな犠牲者を生まないために憲法を無視した「地方自治法改定案」や「経済秘密保護法案」を阻止しなければならぬ旨の話でした。

全国三十五都道府県から百四十名が参加。お元気の菱谷良一氏の北海道からの参加、はつきりとした発言に大きな喝采が寄せられました。

一時間の昼食時間後、各自署名用紙を議員に手渡す行動に移りました。私たちは高橋千鶴子さん、岩淵友さん、田名部匡代さんの三人を回りました。岩淵さんと田名部さんは不在でしたが、高橋さんは在室されており、手渡すところを撮影していただきました。

(三面に続きます)



国会請願行動の様子
左が菱山良一さん、右前が柴田文男さん、右奥が砂渡久美子さん

(二面続き)

午後三時から午後の全体会議があり、各ブロックから要請行動の様子や感想などの報告があり午後四時に閉会しました。

弘前支部の柴田さんは八十八歳とはとても思えない思考、行動力に驚きました。ご一緒できていい思い出になりました。

(上十三支部 砂渡久美子)

「使用済み核燃料搬入許すな」と 市民にアピール

リサイクル燃料貯蔵(株)が三月二七日青森県庁やむつ市役所を訪れ、二〇二四年度から三年分の貯蔵計画を示しました。これによると、事業開始時期を今年七月から九月とし、年度内に一基、翌年度二基、翌々年度に五基の計八基を柏崎刈羽原子力発電所から運び入れるとのこと。再処理事業が不透明のなか、永久的に貯蔵されることになりかねません。

現地実行委員会は五月十九日、むつ来さまい館イベントホールで「使用済み核燃料搬入反対現地集会」を開催。県内から百名余りが参加しました。

初めに現地実行委員長があいさつし、事務局長からむつ、下北地域が原子力半



島となった経緯および中間貯蔵施設の概要、これまでの反対運動の経過など基調報告がされました。各団体の連帯のあいさつは「核のゴミから未来を守る青森県民の会」共同代表、「核燃サイクル阻止一万人訴訟原告団」事務局長代理、「柏崎刈羽市民ネットワーク」代表、柏崎刈羽原発反対地元三団体代表があいさつしました。政党からは

社会民主党青森県連合の今村修代表、日本共産党青森県委員会の安藤はるみ県議団代表、立憲民主党むつ下北支部の杉浦弘樹代表がそれぞれ連帯のあいさつをしました。集会宣言を決議して閉会しました。集会閉会後むつ市の中心街をデモ行進。「下北半島を核のゴミ捨て場にするな」「使用済み核燃料搬入許すな」と市民にアピールしました。

あちらこちらで耳をかたむける市民の様子が見られました。みなさん、今こそ搬入反対の声をあげましょう。

(下北支部)

エッセイ

自分のことをわかってほしい

美奈さんの気持ちを分かってほしい

教育厚生会「相談室」

工藤ふみ

12/12学級通信を読んでいる時

5年 明子

今日、学級通信を読んでいる時ふざけた。先生の書いた学級通信を読む時間をつぶしたのだ。ふざけた人の通信はゴミ箱

の中だ。先生は、「帰っていいんだよ。」

と言う。しばらくいいんとしたままだ。私はさっきしたことをもう一度考えてみた。いつもは聞こえない心臓の音も、今日は胸に手を当てなくても、「ドク

「ンドクン」大きく聞こえる。と、その時、美奈がいきなりちよこまかして、席を離れた。わたしの方に向かっていった。「またわたしに話しかけてくるんだらうな」と思った。話しかけられても無視することにした。でも、その時、美奈はわたしを思ってもいなかった行動をとったのだ。何と向かった先はわたしじゃない。通信が入っているごみ箱だった。そして、通信をとって、しわをていねいに伸ばし始めた。みんなの目せんは、ほとんど美奈だ。私は通信のしわを伸ばしている美奈を見て、胸がどきどきとした。胸に何か刺さった感じだ。美奈は、しわを伸ばした通信をわたしにくれた。また胸がずきとしたりして、残りの通信を自分の机に持って帰り、ふたたびしわを手でのばし始めた。

少し勇気が出たのか、あやまるうと思ったその時、りゆう君が席を立った。雅司も立った。健治も立った。耕治も立った。「ようしわたしもあやまりに行くぞ。」ガダッ！勇気を出して、先生のところに行っちゃった。

(中略)

わたしは今日、この日記を書くのに一時間くらいかかりました。三十分くらいで終わるはずなのにいろいろ考えながらやったら、一時間くらいもかかりました。

(後略)

12月 気持ちを入れかえたい

5年 美奈

5年になって、自分はずごくうろさくなつた。

人がいやがることをした。授業のじやまをしたこと。全部悪いこと。

反省してるのに。

かならずうろさくする。

今日こそちゃんとやるぞ、何もちゃんとやらない。

もう一度、みんなから信用してもらえないようにがんばりたい。

2月 早く二班にもどってきてよ

5年 勇

「今日もか。」知らないうちに、美奈の机が一班にあった。そうだったのは、美奈が悪いんじゃない。

ぼく達が、美奈の美奈なりにがんばっているのにと、いう気持ちを分かってやれないから悪い。(中略)

美奈も、みんなの気持ちを分かって早く二班にもどって来てよ。

(美奈さんが何かでいじけて、その時美奈さんがいた二班を離れた時の班長の日記)

11/27 わかった

6年 美奈

今日の算数の時間のこと。

いつも先生の言っている事が分からなかったんだけれど、今日は分かった。いつも分かりやすく言ってるほいなあ。

5年生から受け持った美奈さん。世話好きで、誰とでも話そうとします。はっきりとその人が駄目なことも言います。ですから、トラブルになる事も多かったです。口癖は一人の気持ちを分かってよです。また、勉強があまりよくできませんでした。学習内容が分からず、大きな声を出したり、授業中立ち歩きのしたり、当番や係り、委員会の活動などでは、わからない事があると、大きな声を出したりと、いろいろありました。居残りさせて勉強を教えようと思いましたが、保護者からは、居残りのですが、保護者からは、居残りで個別指導もできませんでした。でも、係りの仕事と違って居残り、私は、しばしば保護者に叱られていました。それでも、美奈さんが勝手に残っていたことは、言わないでいました。美奈さんは、家に帰って、家事をしなくてはならなかったのです。遊びたいだろうに、家事をしないと晩ご飯が食べられないのです。遊びたいだろうに、家事をしないと晩ご飯が食べら

れないこともあると言っているので、ちよつとの居残りで、私が叱られるのはいいかと目をつぶっていました。

一年間教室でいろいろありました。勇君の日記のように、学級の子ども達も美奈さんの気持ちやお互いの気持ちを考えるようになってきたからか、5年生の最後にはがんばろうと書いてきました。そして、私の授業が良く分らない、もつと分かるように教えて欲しいと言っています。申し訳なかつたと思いましたが。

一昨年、美奈さんの結婚式と披露宴に出席しました。お祝いの言葉を述べ、美奈さんの手を引き歩いたのですが、一番嬉しかったのは美奈さんのお母さんから「お世話になりました」と直接言われたことです。分かってくれるまで二十年かかりました。美奈さんは私に「先生は約束を守って、(勝手に)居残りしたことを、お母さんに言わなかったからよかった」と言いました。

子ども達は、様々な家庭の困難を背負いながらも学校に来てくれます。勉強が分かりたいという願いもありますし、何よりも、自分のことを分かってくれたいという願いがあります。